

平成 29 年度（2017 年度）

第 57 回大会

男子優勝：札幌日大 女子優勝：札幌国際情報

【全道大会寸評】

第 57 回となる北海道高等学校テニス選手権大会は、6 月 13 日から 17 日の 4 日間の予定で、北見市東陵公園庭球場で開催されました。大会期間中、初日は雷雨、2 日目は雨天によりそれぞれ 2 時間以上の中断に見舞われましたが、何とか 17 日の夕方 17 時過ぎに全日程を終了することができました。

昨年に引き続き悪天候の中での大会となりましたが、選手は力を振り絞ってプレーしていたように感じました。

今大会を通して、当番校の北見北斗高校の教職員や生徒のみなさんをはじめ、多くの方々のご尽力のおかげで、無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

男子団体戦は上位 4 校の力が均衡し、熱戦が繰り広げられましたが、結果的には第 1 シードの札幌日大高校が熱戦をものにして 3 年ぶり 8 度目の優勝を飾りました。女子団体戦は 1 年生の活躍が目立ち、常連校の上位進出を阻む試合が多く見られ、第 2 シードの札幌国際情報高校が初優勝を遂げました。ここ数年は毎年のように 1 年生が多く活躍しており、北海道各地でも小中学からテニスを始める子どもたちが増加しているように感じられます。

男子ダブルスは第 6 シードの高島・久保井組（北科大高）が優勝に輝き、北科大高としても初優勝となりました。女子ダブルスは第 1 シードの照井・金内組（札幌啓成）が優勝し、札幌啓成としても初優勝となりました。

男子シングルスは第 3 シードの横濱圭亮（札幌日大）が準決勝以降の接戦をものにして初優勝に輝きました。横濱はダブルスも準優勝し、団体・個人戦シングルス・個人戦ダブルスの全ての種目で高校総体に出場することになりました。女子シングルスでは昨年優勝の沖田優羽（札幌藻岩）が、1 年生の台頭により札幌支部大会の結果第 8 シードで今大会に出場しましたが、上位シード選手との熱戦を制し、見事昨年に続く連覇を果たしました。

今大会は、団体戦と個人戦を合わせて男子が 3 校、女子が 4 校全国大会の切符を手に入れました。また年々道内各支部の選手の力の向上も感じられる大会となりました。

以上、各選手の全国高校総体での活躍を期待します。

【全国大会】

2017南東北総体テニス競技は、8月1日から8日会津市総合運動公園テニスコートで開催されました。ここ数年の総体は毎日37度を上回るような暑さの厳しいものでしたが、今年の大大会は30度程度の日が多く、北海道の選手にとっては、比較的試合をしやすいものであったといえます。

男子団体戦では札幌日大が長野県の強豪松商学園と対戦、ダブルスの久留宮・古川組が3-8で敗れたのち、NO1シングルス横濱は3-8、NO2シングルス本間も4-8で敗退しました。いずれの選手も、良いプレーをしましたが、大事なポイントの獲得という点で大きな差が出た試合でした。女子団体戦では2回戦で札幌国際情報が埼玉県の高豪校山村学園と対戦しました。ダブルス有吉・高橋組が0-8で敗退したのち、NO1シングルス横山も4-8、NO2シングルス小林も3-8で敗退しました。いずれの選手も初出場の緊張からか、本来の力を出すことができずに残念な結果でした。

個人戦には、シングルスに男女各4名、ダブルスには男女各2組が出場しました。男子シングルスでは高島（北科大）が、1回戦で近大和歌山に8-3と快勝、2回戦に進出しました。2回戦では名古屋（愛知）と対戦、終盤までリードする展開で5度のマッチポイントを握りましたが、勝利に結びつけることができず、相手に1回目のマッチポイントをものにされ、8（10）-9で惜敗しました。女子シングルスでは、照井（札幌啓成）が、1回戦では山村学園（埼玉）に3-7から逆転し9-7で勝利、2回戦でも柳川（福岡）に8-4で勝利、3回戦に進みました。3回戦では早稲田実業（東京）と対戦、3試合目ということでスタミナが切れたのか本来の俊敏な動きがみられず、2-8で敗退、ベスト32となりました。一方、男子ダブルスでは、1回戦で横濱・本間組（札幌日大）が強豪校清風（大阪）と対戦、中盤までせりましたが、サーブ力の差で押し切られ、5-8と敗退しました。女子ダブルスでは、横山・小林組（札幌国際情報）が沖縄尚学と対戦、思い切ったプレーで強豪校と互角に戦いましたが、最後は展開力の差が出て6-8と惜敗しました。なお、この沖縄尚学のチームが優勝を果たしており、大善戦であったといえます。

今大会北海道からは、男子の本間（札幌日大）、三上（北海）、女子の照井・金内（札幌啓成）、横山・有吉・高橋（札幌国際情報）、沖田（札幌藻岩）と1・2年生が多く出場しており、来年度の活躍を期待したいと思います。

優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校 主将 横濱 圭亮

僕は、1年生の時にインターハイ出場を逃し、2年生の時にもインターハイ出場を逃しました。なので、最後のインターハイには何としてでも出場したいと思っていました。ですが、僕が1年生、2年生の時のチームの方がテニス経験者が多く、とても強い人ばかりでした。

そこで、僕はそのまま個人個人強くなっても勝てないと思ったので、チーム力をもっとどこの高校よりも強くしていこうと決めました。チーム内で会話や意見交換が多くなり、全員の気持ちインターハイ出場という目標になったと思います。

そして、今回全道優勝をしてインターハイ出場を決めることができ本当に嬉しく思っています。それと同時に、僕たちがやってきた練習や話し合い、努力は間違っていなかったんだという実感が湧きました。

僕は、優勝するしないに関わらず、札幌日本大学高等学校の選手として、コート上で僕のプレーを表現することができてとても幸せに思います。そして、どこの高校よりも声を出して応援してくれていたチーム全員や顧問の先生方と戦うことができ僕は幸せ・だと思います。

今まで、高体連では結果を残すことができずとても悔しかったのですが、今回優勝することができてよかったです。

全国大会でも、チーム力を発揮してベストの状態です試合に臨んできたいと思います。

優勝のよろこび

札幌国際情報高等学校 主将 小林 灯李

私達は、全道大会で初優勝することができました。正直、私もチームのみんなも優勝できるとは思っていませんでした。私が入学したときの校内にはテニスを続けている人がいなかったの、高体連の試合は個人戦しか出場することができませんでした。しかし、去年今年とテニス経験のある頼もしい後輩が入ってくれたおかげで、ダブルス・団体まで組むことができました。土日には4人でコート借りて集まってたくさん練習し、お互いの悪い所、良い所を言い合いながら日々努力してきました。春の団体戦のスタートはとても悪く、初戦敗退という形で終わってしまい、そこから全員でさらに練習し、支部大会では2位、そして今回の全道大会では1位を取ることができました。

私達がここまで来ることができたのは、仲の良さだと思います。先輩、後輩の区別はあまり考えずに練習の後遊んだり本当に仲が良いです。試合のオーダーは監督が考えることが多いと思いますが、私たちは4人で誰が一番適切かを考えることができました。これは仲の良さが良い結果を生んだのだと思います。そして遊ぶ時は遊び、集中するときは集中するというけじめがしっかりつけられたことも勝因の一つだと感じました。

最後に3年間支えてくれた両親、引率の先生方、高体連本部の先生方、長永先生、本当にありがとうございました。私が引退すると団体戦が組めなくなってしまうので、来年も新しい後輩が入学し、団体に優勝することを心から祈っています。

全国高校総体 [第107回全国高等学校テニス選手権大会] 福島県会津若松市
(はばたけ世界へ 南東北総体 2017)

8月1日～8日 会津総合運動公園テニスコート
あいづドーム

男子 個人戦シングルス 優勝 : 菊地 裕太 (兵庫: 相生学院)
女子 個人戦シングルス 優勝 : 平田 歩 (岡山: 岡山学芸館)